

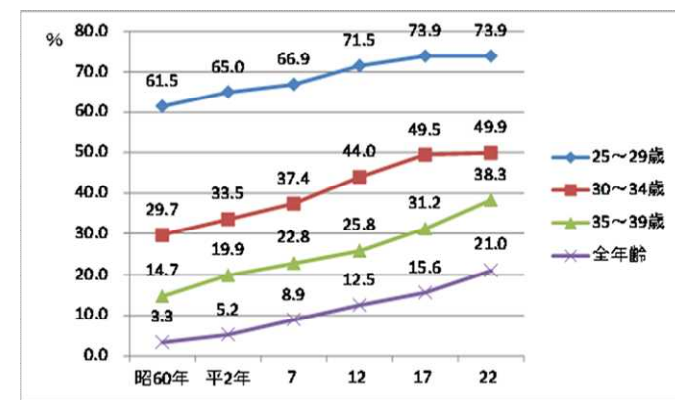
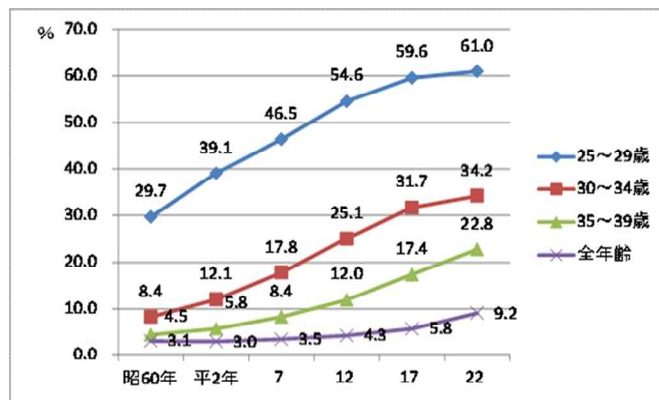
独身者やひとり親も気軽に参加可能な市民婚活支援

(平成26年度埼玉県子育て応援サイト、平成25年度厚労省自立支援施策より抜粋)

●近年の少子化の進行の要因、未婚化、晩婚化の進行

平成22年厚生労働省の統計によると、未婚の割合は男性が高く、死別の割合は女性が高く、母子家庭では低年齢での離婚が多く、約3割が20歳代である。

↳ 平均初婚率、男性38.3% (35歳～39歳)、女性61.0% (25歳～29歳)と上昇傾向にある



●ひとり親世帯の増加、結婚をめぐる異性との出会いの方の変化

平成25年度国民生活基礎調査によると、児童(18歳未満の未婚の者)のいる世帯の7.5%、91.2万世帯がひとり親世帯(推計値)、一貫して増加傾向にある。格差や経済的理由により生活的な余裕がない。

↳ 少子化の背景にある「恋愛・結婚」にも目をむけた対策の必要性
多様な家族形態や親の就労の有無にかかわらず、社会的な支援を行う

婚活、出会いの場づくり

行政・企業の
サポート

誰もが結婚、出産、子育ての
しやすい街づくり

実施内容

●近年の少子化の進行の要因、未婚化、晩婚化の進行

- ↳ 町内会、自治会、シルバー人材等サポーターによる仲介者育成と組織づくり、「おせっかい仲人」の復活

子連れでも参加しやすいように、保育所や児童館等を活用、シッターの派遣を行う等のサポート

お見合いパーティー主催業者と協力

イベント開催時には市内商業施設協力



●成婚後、生活援助や市内商業施設の協力による支援体制により、市内移住を促進する

- ↳ サービス利用や商品購入によるポイント制等導入によるバックアップ

●口コミを利用したフィードバック等情報発信

- ↳ 民間、関係企業との連携、ネットでのPR



事業による効果

成婚による
居住人口増加

世帯
収入増加

市内就労
人口増加

パーティー開催による成婚数目標値

1年間
3～4回開催
5組 成立

5年後
15～20回開催
25組 成立

10年後
30～40回開催
50組 成立

支援体制

結婚を希望する男女

- お見合いのお世話
- パーティーの開催

出会いの場等
支援やお手伝い

- 結婚相談等

出会い応援団体

マリッジサポーター
町内会、シルバー人材等

企業、社協、協力団体
賛助会員



事業名③：子どもの夢を叶える街づくり

I - 事業に向けての現状と課題

実施内容

- 卓越した能力、技能を持っているにもかかわらず十分な訓練や育成を受けられない子どもがいるのではないか
- 才能が埋もれたままになってはいないか
- 夢や目標をあきらめず持ち続ける子どもが増えて欲しい
- 近隣にある大学、専門学校、企業を市内の子どもの教育に生かしたい
- 学校になじめない為に能力を伸ばせない子どもがいるのではないか



事業名③：子どもの夢を叶える街づくり

Ⅱ- 事業概要

高い能力、目標を持った子どもが金銭的、地理的な理由で制約を受けないように支援

➡ 経済的補助、道具や練習場所の提供。または、市が選任したコーディネーターによる情報支援、試合や研究発表等欠席が必要なときの学校との調整、スポンサー探し。

サッカー

- クラブチームへの送迎ガソリン代補助
- セレクション会場の提供
- クラブチームのスカウトに対する市内の試合情報の提供
- 道具を提供してくれるスポンサーを探す
また、メーカー等へ優秀な子どもの紹介
- 遠征等で学校を休むとき、学校との連絡調整、宿題の受け渡し
- 近隣大学チームとの合同練習

吹奏楽



- 楽器の提供、修理費の補助
- 優秀な指導者の招聘。近隣音楽系大学の先生による指導
- 楽譜の提供
- 行事等への参加の調整



事業名③：子どもの夢を叶える街づくり

Ⅲ- 実施内容①

実施内容

ハイレベルかつ個性的な課外カリキュラムを地元近隣大学、専門学校、企業と連携して運営し、学校教育以外の分野でスペシャリストの卵を育成する。

➡ 入門的な体験カリキュラムではなく、強い興味や基礎的な知識が既にあるもの向けのカリキュラムを運営する。

例えば.....

プログラマーになりたい

- KDDI社員とアプリの企画、開発。ホンダ学園にアシモの開発者を紹介してもらう



音楽家になりたい

- 尚美学園大学、東邦音楽大学の先生による演奏、声楽の指導



料理家になりたい

- 西武調理師専門学校の先生による指導
- #### 医療を学びたい

- 上福岡高等看護学院や文京学院大学の先生による指導

国立大学に行きたい

- 学習塾による特別授業



その他の実施内容

単発での専門的な講座を開き、特定の専門分野に興味を持つ子どもを捜す。

- 数学コンクール、芸術コンクールなどを開催し、天才を発掘する。
- ファンになった選手等に対して市民が経済的支援をする「市民サポーター制度」の設立



事業名③：子どもの夢を叶える街づくり

IV- 地方創生に与える効果など

成果

- 支援事業利用者(市内在住の小学校1年生～高校3年生)が約50～60名／年程度
- 5年に1人は、国際的な大会やコンクールに出場
- 身近に頑張っている子どもがいる事により、ほかの子どもも触発され前向きになり夢や目標をもつ子供が増える(アンケートを実施して成果を確認)
- 学校になじめない子どもも活躍の場を見出せる
(登校拒否児童や発達障害児童の前向きな進路選択を可能にする)

副次的成果

- 全国的に有名になった人が出た場合ふじみ野市のPR効果
- 施策に魅力を感じて若年人口の流入



事業名②： 触れ合い、支え合う子育て支援の為の異世代交流事業

I - 事業の背景

時代の変化

「家庭」「地域」「職域」の果たしてきた人間関係の機能や親の子育て環境の変化、社会全体の仕組みとして子育てセーフティネットの再構築する必要性

社会全体での支援の不足

- 誰でも参加及び協力可能な触れ合いの「場」づくりが必要
- 子育てを通じて、環境面等で孤立しがちな親に対する支援体制の強化
- 利用者目線での対策や環境整備

(平成21年度ゼロから考える少子化対策プロジェクトより抜粋)

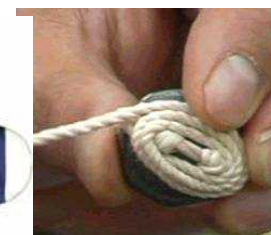
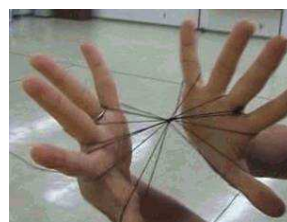


事業名②： 触れ合い、支え合う子育て支援の為の異世代交流事業

Ⅱ- 実施内容

レクリエーションを通じての交流の場づくり

- ➡ 昔ながらの季節の行事や伝統的な遊びを共に行い、世代を越えて教え伝えて、学び合う
- 地域全体の親睦や交流をはかり、支え合いを目指す



遊び相手のいる場づくり

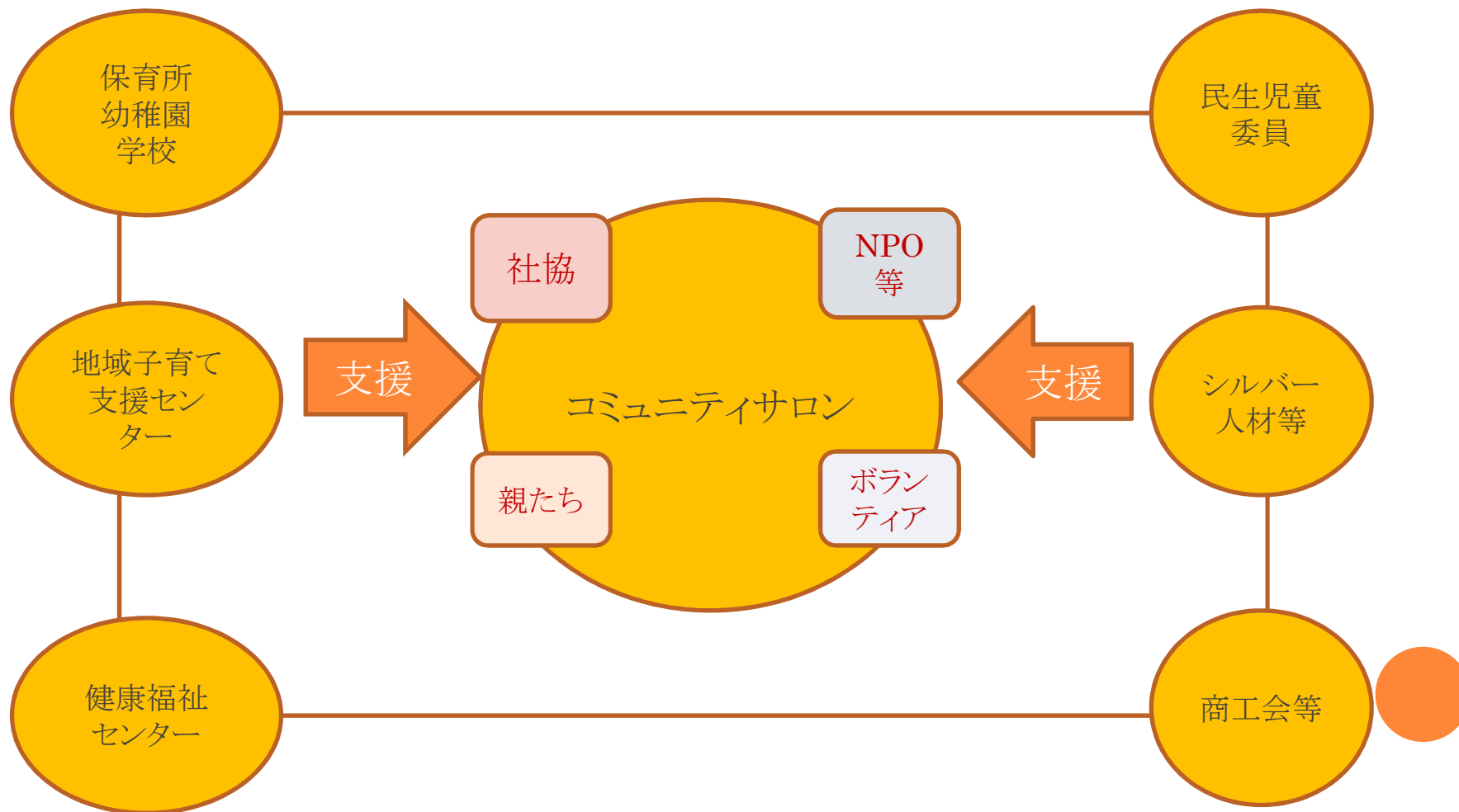
- ➡ 商店街の空き店舗や公民館等を利用、
- いつでも誰でも気軽に立ち寄れ、医療等専門家による悩みや相談が可能なコミュニティサロン
- 子育て経験のあるスタッフを活用、働く世代や孫の世話をする祖父母へ
- 平日中心に交流を目指し、情報交換や仲間づくりを応援する
- 個食を防ぐための食事会(同じ釜の飯を食う仲間づくり)



事業名②： 触れ合い、支え合う子育て支援の為の異世代交流事業

Ⅲ- 実施概要

子育て見守りネットワーク



ふじみん子ども新聞の創刊

現状と課題

(平成26年5月 産業競争力会議への厚労省提出資料より一部抜粋)

- 共働き家庭などの児童に対し、放課後に適切な遊び・生活の場を提供する放課後児童クラブを実施。平成25年には全国で約89万人が利用。
- また、平成19年から放課後子どもプラン(放課後子供教室と放課後児童クラブを一体的に、又は連携して実施)を開始したが、十分に進んでいるとは言えない。

- 放課後児童クラブを希望しても利用できなかった児童が存在
- 保育所と比べると開所時間が短い

就学児童の放課後の安心・安全な居場所の整備を進め、
子どもが小学校に入学するとこれまで勤めてきた仕事を辞めざるを得ない状況
(いわゆる「小1の壁」)を打破する必要

- 次代を担う人材の育成の観点から、放課後における多様な体験・活動の機会の拡大が重要

☆ ふじみ野市の放課後子ども教室の現状 (ふじみ野市HPより抜粋)

開催校 : 大井小、東原小、亀久保小、さぎの森小、東台小、西小、駒西小、福岡小、元福小、西原小、三角小
開催日時 : 週1日開催(学校により曜日指定)、
5月から9月 午後3時から午後5時まで 10月から3月 午後3時から午後4時30分まで
教室の内容 : 宿題・工作などの学習活動、異年齢の子どもとの交流活動、
サッカー・ドッジボール・バスケットボール・遊具等のスポーツ活動
その他 : 参加には登録が必要(登録費1,500円、その他内容による参加費や損害保険加入が義務付け)

目的

(平成26年5月 産業競争力会議への厚労省提出資料より一部抜粋)

共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、
全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことが
できるよう、総合的な放課後対策に取り組む。

放課後子ども教室の拡充

- ★ 全ての児童を対象とした**学習支援・多様なプログラムの充実**
- ★ 大学生、企業OB、民間教育事業者、文化・芸術団体等の**様々な人材の参画促進**

- ・小学生、中学生の学校以外の学びや出会いの場としての環境を創る。
- ・放課後の課外活動(クラブ活動)として、共働き世帯の親の負担を軽減する。
- ・子どもたちが犯罪に巻き込まれる機会を低減する。
- ・子どもたちがふじみ野市の産業や文化、歴史などを実地体験することで、郷土愛を育む。
- ・子どもたちの活動を通じて、その親たちの郷土愛も育むことができる。

具体的な実施内容

- ・市内小中学校の新聞委員、放送委員などの協力を得て、「ふじみん子ども新聞」編集委員会(各校2名程度)の参加を呼びかける。
- ・編集委員会では、市内のマスコミ・PR関連の経験者などを指導員やオブザーバとして、子どもたちに取材対象の検討や取材方法などの指導を行いながら、新聞の取材方針、取材先などの選定を定期的に行う。
- ・編集委員会の方針に従って、持ち回りで市内の産業・文化など取材を指導員の指導の基、子どもたちが担当する。
- ・隔月など定期的に新聞を発行し、市内小中学校や公共施設などに配布する。
- ・将来的には、誌面に広告掲載も行い、制作コストの縮減を図ることも検討。

新聞の仕様

- ・A4、4頁、カラー印刷、5万部×年4回発行(季刊)
- ・紙以外に、インターネットでも同じ内容を配信する。



事業の効果

子どもやその家族が新聞制作や購読を行うことで
以下の効果が見込まれる。

★取材等参加児童 100人(年間目標)

★購読者数 延べ20万人(年間目標)

・地域への理解促進
・郷土愛を育む

定住促進を期待

その他の効果として、取材先となる団体や企業、商店街
などのPRに貢献でき、産業などの活性化を図ることができる。

★取材先団体・企業数 60か所(年間目標)